第６類

コロナ禍における効果的なハイブリッド授業の試み

吉富　由佳子

YOSHITOMI Yukako

高等教育では、これまでもオンライン等の遠隔講義が推進されてきたが、2020 年のコロナ禍により、はからずも一気に加速されることとなった。当稿は、保育職志望の学生を対象として、オンラインと対面を併用したハイブリッド授業の実践とアンケートによる調査を行い、効果的なハイブリッド授業の論考を試みるものである。(1)オンライン授業はおおむね好評であるが、かえって対面授業の良さを実感した学生もいる、(2) オンライン授業や動画視聴の中でも、習熟度をアップさせることができた、(3) ICT を取り入れた教育は、機器やネットをスムーズに扱うことができれば学生の満足度も高いという結果が得られ、ハイブリッド授業や他の情報ツールの可能性と有効な利用の仕方について考察を行った。

キーワード：ハイブリッド授業、オンライン、zoom、グーグルフォーム

1.　はじめに

2019年末に中国にて確認された新型コロナウイルスによる感染症は世界中で感染拡大を続け、日常生活ではマスク着用や手指の消毒が当たり前となり大学での授業風景もオンライン化へ一挙に加速した。遠隔双方向通信システムとしては、以前よりSkypeなどのビデオ通話システムが存在したが、データ量の軽さや画面共有の簡便さなどからzoomが広く使われるようになっている。筆者は、「社会的養護Ⅰ」（全15コマ）を担当し、比較的初期の段階で緊急事態宣言が発出されたため、当初予定していた授業計画の変更を余儀なくされた。教員側も準備不足で、受講者は、ほぼ1年生で機器の操作に不慣れという状況下ではあったが、反対にこれを生かした授業設計ができないだろうか。

本稿では、オンラインと対面のハイブリッド授業を行うにあたり、大学でのICT教育の実践を試みることで学生自身がより主体的に学習をすすめられるような授業デザインを提案したい。まず、授業の方針を述べたあと、実際に取り入れたツールの具体的内容を紹介し、学生アンケートから得られた授業の学習成果及び課題と改善点を考察する。

2. 方　法

調査期間：2021年5月10日～6月28日

調査対象：保育職志望の短期大学生69名

調査方法：授業時間内に実施

2-1　授業方針

筆者が担当している「社会的養護Ⅰ」の社会的養護とは、保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。 さらに「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」を理念として行われている。これらの基礎的な知識を半期15回の講義で習得することが目的であり、学生が目指す保育士が社会的養護の現場では多く配置されている。しかし、「措置」や「介入」などの通常聞きなれない言葉が多く使われており、高卒後間もない学生たちには教科書を読み込むことも難しいと思われた。また、予習を課しても個々で差がでることが予測されるため、学生全員が持参していることを確認したうえで、あらかじめピックアップした重要語句を授業時間内に携帯電話(スマホ)で検索させ、プリントに書き写させることとし

た。さらに児童養護施設や里親制度など、あまりなじみのない現場の雰囲気の理解を促すため、DVD教材なども用意していた。

第3回の授業直前に緊急事態宣言が発出され、第3回から対面授業とオンライン授業を併用するハイブリット授業を行うことが急遽決定した。そこで、当初の基本方針を崩さず、学生に最善の学習効果を上げてもらうために、ネット環境を生かした授業づくりに取り組むこととした。アンケート調査は、全面対面授業が決定してから2回目にあたる第11回の授業時に行った。オンライン授業は、zoomを利用した。

2-1　授業の具体的内容

授業では、主にプリントを使用した。プリントには、学んで欲しい重要語句を記載し、各自で調べて意味を書くように指示した。また、ミニレポートのテーマを記載し、次回授業時に回収することとした。オンライン参加が多くなることがわかってからは、YouTube動画やグーグルフォームのURLを記載するようにして、プリントの枚数を減らすこととした。

オンライン配信で大学より使用するよう指示されたアプリケーションはzoomであり、学内でグーグルアカウントを教員も学生も取得済みであった。

授業の前週末には、zoom配信のIDとパスコードを知らせ、同時にプリントをダウンロードできるよう掲示板に掲載し、受講学生は事前に情報を得ることができた。

アンケートと社会的養護に関するミニクイズは、アンケートを簡便に作成、分析できるツールであるグーグルフォームを使い、無記名で特定できないとあらかじめ学生には伝えた。

密にならず、意見交換ができるzoomのブレイクアウトルーム機能を一度使用した。

DVDを遠隔で視聴させることは著作権の侵害にあたるため、視聴はYouTube動画に統一した。

3.結　果

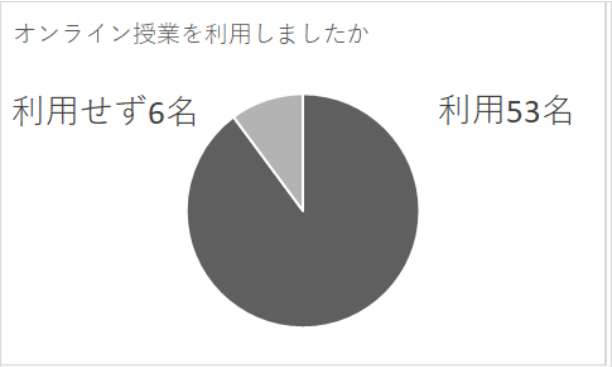
3-1　全体アンケート結果

グーグルフォームを用いたアンケートでは、59名の回答が得られた。うち26名はグーグルフォームに入れなかったため、紙での回答であった。

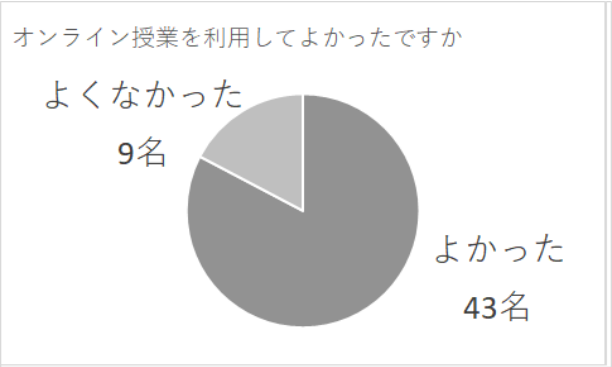
質問項目は以下の通りである。

1.オンライン授業を利用しましたか
2.オンライン授業を利用した人にお聞きします。オンライン授業を利用してよかったですか
3.　2.の理由を教えてください
4.オンライン授業で困ったことはなんですか
5.オンライン授業を使わなかった人にお聞きします。使わなくてよかったと思いますか
6.オンラインを使わなかった理由を教えてください
7.皆さんにお聞きします。同じ時間帯にオンライン授業と対面授業のどちらもすることはどう思いますか。
8.　7で答えた理由を教えてください
9.　こうしてほしかったなど、オンライン授業について何でもよいので、書いてください
10.この授業では、オンラインやこのアンケートのようなグーグルフォーム、YouTubeなどを使いましたが、どう思いますか。

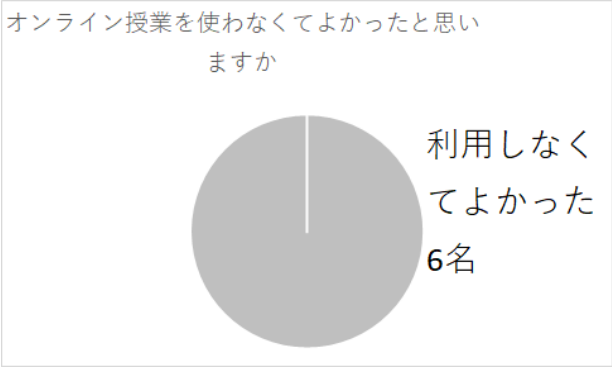
59名のうち、オンライン授業を利用した学生は53名で約9割を占めた。



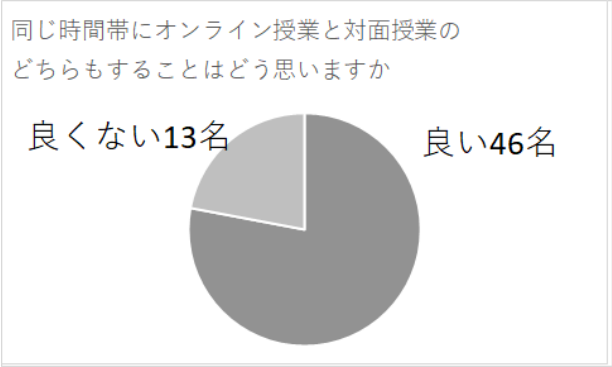
オンライン授業を利用した学生のうち、「よかった」と回答したのは、43名(82.7%)であった。



オンライン授業を利用しなかった学生6名のうち全員が利用しなくて良かったと回答していた。



対面とオンラインの併用授業については、78%の学生が「良い」と答えた。



自由回答では、オンライン授業利用者は感染リスクへの不安の軽減という本来の目的以外に「通学時間を他の時間に使える」「ひとりで集中できた」「共有画面をしっかりと確認できた」「教員の声が聞き取りやすかった」と、おおむね好評であった反面「動画の音声が聞きにくい」「資料印刷をするのが大変」などの声があった。オンライン授業を利用しなかった学生からは、ネット環境や機器のトラブルへの不安が訴えられ、「対面のほうが集中できる」との声もあった。その中で、ハイブリッド授業について「良い」と答えた学生は「それぞれの受けやすい環境で受けられる、より良い方法を選択することが出来る」などの回答があった。「良くない」と答えた学生の選択理由としてオンライン利用者は「対面の方に話されている時間何をしたらいいか分からない状況だった」と答え、一方で対面授業を選んだ学生は「オンラインの人のことを気にして授業が進まない」という不満の声が得られた。

3-2　社会的養護に関する習熟度

以下の内容でクイズを行った。

1.保育士が園児を無視。これって児童虐待?
2.児童養護施設では自室を持てない？
3.小さいときに虐待されていた人は、自分が嫌だった経験があるので、虐待をする人は少ない？
4.学びたいという気持ちさえあれば、奨学金は無条件で借りられる？
5.児童養護施設にいったん入所すると18歳にならないと退所できない？
6.措置には次の二つの意味がありますが、福祉でよく使われる意味はどちら?
7.児童養護施設の中では、常に職員が気を配っているので、子ども同士の暴力はほとんどない？
8.児童生徒にわいせつ行為をした教員は、もう教員に戻れない?
9.母子生活支援施設には「措置制度」が適用されない？
10.両親のわからない乳児の名前をつけるのは誰?
11.次の文は、「社会的養護の課題と将来像」（児童養護施設等の社会的養護の課題に関する検討委員会・社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会）（平成23年7月）における「社会的養護の理念と機能」の一部である。（A）～（D）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。社会的養護は、保護者のない児童や、保護者に（A）させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。社会的養護は、「子どもの（B）のために」という考え方と、「（C）で子どもを育む」という考え方を理念とし、保護者の適切な養育を受けられない子どもを、社会の公的責任で保護養育し、子どもが（D）基本的な権利を保障する。
①A 監護 B 基本的人権の保障 C 地域　D 安全で安心して暮らせる
②A 養護 B 最善の利益 C 地域　D 心身ともに健康に育つ
③A 監護 B 最善の利益 C 社会全体　D 心身ともに健康に育つ
④A 養護　B 基本的人権の保障 C 社会全体 D 安全で安心して暮らせる
⑤A 監護　B 最善の利益 C 社会全体 D 安全で安心して暮らせる

(解説

1.児童虐待は保護者が監護する児童（18歳未満）を虐待することと定義されているので、正答は「児童虐待といえない」が正しい。

2.個室がもてる児童養護施設もあり、いろいろな観点から推進されてきている。

3.必ずしも、そうなると言い切れないことを押さえた上で、被虐待児が虐待する保護者になるケースは少なくない。

4.児童養護施設出身者を対象とした民間財団の奨学金制度なども増えつつあるが、無条件に貸付というわけではない。

5.児童養護施設で暮らす子どもが元の家庭に戻ることを家族再統合といい、個々のケースによって異なるため、必ず18歳まで児童養護施設で暮らさなければならないわけではない。

6.「措置」という言葉は日常ではあまり使われないが、福祉で使われるのは「事態に応じて必要な手続きをとること。取り計らって始末をつけること。処置。」の意。

7.児童養護施設内での子ども間の暴力は少なくない。特に性暴力においては、2011年、施設に預けられていた女児が同じ施設で暮らす男子中学生から、わいせつな行為を繰り返し受けたことが発覚したのをきっかけに、厚生労働省が実態調査を行った。2017年に全国の児童養護施設や里親家庭などで起きている子ども間で生じる問題に関わった子どもの実人数は約1000名に上ることが明らかとなった。

8.直接、社会的養護とは関係ないが、5/28に「教員による性暴力防止法」が成立したばかりでタイムリーだったので入れた。これまでは、懲戒免職になり教員免許を失効後3年たってから申請すれば自動的に再交付を受けられるという状況であった。今回、再交付を拒否できる権限を都道府県教育委員会に与えられたが、教員にまったく戻れないわけではない。

9.2の関連問題。社会的養護に関する制度の母子生活支援施設を除いた主たる部分に「措置制度」が残されることとなった。

10.戸籍法第57条2項によると棄児に対し「市町村長は、氏名をつけ」とあるが、実際には都道府県知事であることも多い。

11.過去の保育士資格試験からの問題。社会的養護は、保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。社会的養護は、「子どもの最善の利益のために」という考え方と、「社会全体で子どもを育む」という考え方を理念とし、保護者の適切な養育を受けられない子どもを、社会の公的責任で保護養育し、子どもが心身ともに健康に育つ基本的な権利を保障する。)

1回目はオンライン授業出席が大半であった5/31に、2回目は全面対面授業に戻った6/28に、同じ問題で無記名で実施した。1回目の解答後には説明を加えて正答を示し、後日、同じクイズを実施することは伝えなかった。集計したものをリアルタイムで学生に見せたかったので、グーグルフォームを読み込めた者のみの解答となった。以下が学生の正答率であり、正答率が上がった問題は11問中8問であった。

問題番号	1回目正答率 38名回答	2回目正答率 22名回答	正答率が上がった問題
1	15.8%	50%	○
2	28.9%	77.3%	○
3	65.8%	100%	○
4	86.8%	77.3%	
5	94.7%	90.9%	
6	89.5%	81.8%	
7	76.3%	100%	○
8	28.9%	54.5%	○
9	21.1%	22.7%	○
10	2.6%	22.7%	○
11	21.1%	36.4%	○

3-3　グーグルフォームやYouTube動画などを利用した授業の感想

グーグルフォームは読み込めないという不満が大多数であったが、スムーズに読み込めた学生からは「答えやすいのでプリントに書くより良い」「アンケートは他の人の回答が見られる」という意見があった。また、YouTube動画視聴は、音声が聞き取りにくいというシステム上の課題は指摘されたが、「実際に経験した人の話を聞くのでとても良い」「(URLを知っていれば)また見返すことができるのでよい」という意見があった。zoomのブレイクアウトルーム機能についての感想は1件のみであったが「対面じゃないのでほぼ知らない人と話すのが緊張した」ということであった。

上記のことから、

(1)オンライン授業はおおむね好評であるが、かえって対面授業の良さを実感した学生もいる、(2) オンライン授業や動画視聴の中でも、習熟度をアップさせることができた、(3) ICTを取り入れた教育は、機器やネ

ットをスムーズに扱うことができれば学生の満足度も高いという結果が得られた。

4．考　察

今回は、教員も学生もあまり準備できないままハイブリッド授業に突入してしまった。今年度から授業を担当したとはいえ、実際にはコロナ禍により昨年度から遠隔授業が加速することは予測できたのだから、もう少し準備したり、対面授業のうちに学生に機器に習熟させたりすればよかったと考える。特に、受講学生はほぼ1年生であり、携帯電話やパソコンの使い方が限定され、パスワードを忘れる、zoomで音声が聞こえないといった受け取り側の問題であるトラブルが多く発生した。しかし、慣れないながらも、オンライン授業は好意的に受け止められていたようである。本来は新型コロナ感染を恐れ、対面授業に不安を感じる学生のための対応ではあるが、「通学時間がなくなり、他に時間を使える」「集中できた」「質問しやすい」などのメリットを学生は感じていたようであった。

一方、少数ながら対面のみを選んだ学生は、全員が対面授業でよかったと回答した。その理由として、「対面に来ている人が少ないと授業に集中しやすい」などの意見に代表されるように、受講人数が少なくなってゆったりと授業を受けられたからと推察する。もともと70名弱の受講生が出席し、透明なパーテーションを張り巡らせた空間は、閉塞感を感じさせる。対面受講生が少ないときは、意見をシェアする際もリラックスしており活発な意見や質問が相次いだが、いざ全員の対面授業が再開されたときは、また学生の間に消極的な雰囲気が漂った。藤原ら(2021)は、特に新入生に対して対面でのコミュニケーションの場を設定する必要がある、と述べているが入学したばかりの学生には特に配慮すべきだろう。

ハイブリッド授業だからこそ、接触せず意見をシェアしやすいと考え、オンライン学生には、zoomのブレイクアウトルームでランダムにグループ分けをして、自己紹介から始めるように促したが、どうしてよいかわからない学生が大半で、うまく機能しなかった。効果的に活用するためには、あらかじめ対面時にしっかりと演習する必要がある。特に、対人援助職の研修は、単に講義を聞くだけでなく、初対面の受講生とグループになって話し合ったり、プレゼンテーションを行ったりするものが多い。社会人になると、職場の代表として研修に出る機会もあるだろう。その時に困らないようなスキルをしっかりと身につけるためにもオンライン授業を活用することを今後試みたいと考える。

当講義ではテストを実施せずミニレポートで評価するため、全体の習熟度データはグーグルフォームを活用した。グーグルフォームのよい点は、挙手と違って誰がどの回答をしたかわからなくできる上、すぐにグラフ化できるので、自分の解答と照らし合わせられることだ。教員側も受講生の理解度を確認しながら、どの問題を重点的に解説したらよいか対応できるのがメリットだ。グーグルフォームは教員と学生双方が負担なく取り組める効果的なツールであったが、読み込めない学生が続出した。特に全員対面授業時には、出席人数の半数以下の22名しか読み込めなかった。オンライン出席が大半だったときのグーグルフォーム参加数は38名であったから、自宅のパソコンにしかアカウント設定していないのではと考えられるが、ひとりひとりの事情を聞いていないので原因はわからない。このように、ICT教育は、たどりついたあとは、個人のペースで負担少なく進められるが、至るまでの接続や設定が面倒である。また、学生によって情報リテラシーの違いがあり、どこまで教員側がフォローするべきか悩ましい。情報リテラシーの高い学生に手伝ってもらうなど何らかの工夫が必要で、設定から授業設計、実施、フォローまでをひとりの教員がスムーズにこなすことは至難の業だ。実際、筆者も対面の学生とオンラインの学生のどちらも待たせないことに腐心したものの、不満の声は上がっており、対面授業とオンライン授業を同時並行するハイブリッド授業はかえって難しいと感じた。学生からは「一緒にするほうが先生も楽だと思う」と教員を気遣った意見もあったが、筆者は心理士という職種柄、双方向コミュニケーションを目指していたのでどちらの側にも配慮しなければならず、よほど上手に授業設計をしないとどちら側にも満足を与えることはできないと感じた。

習熟度に関しては、あえて覚えることを強制しなかったにもかかわらず11問中8問の正答率が上がり、当初の目標はおおむね達成できた。単なる講義だけでなく、視聴覚教材によって、学生に印象付けられた効果は大きい。特に、虐待の世代間連鎖に関わる問題と児童養護施設内の子ども間暴力の問題は特に筆者が伝えたい実情であったので100%の正答率が得られたことはうれしい限りだ。

視聴覚教材の不満は、音声が聞きづらいといったハード面でのものが大半であった。オンライン出席の学生には動画を見られるURLを配信したが、QRコードに変換して掲載するなど、よりアクセスのしやすい工夫が必要であった。内容に関しては、著作権の関係からDVDではなく誰でも見られるYouTube動画にせざるをえなかったのだが、結果的に功を奏した。なぜなら、DVDはよくまとまっているのだが、古いものや若者がとっつきにくいものが多いからだ。すでに社会的養護に関するYouTubeチャンネルは複数存在し、学生より少し年長の発信者が今の言葉で語りかけていた。こうした内容にほとんどの学生が「わかりやすい」と答え、ミニレポートにも身近な問題ととらえ表現できていた。

コロナ禍がきっかけではあったが、オンライン及びハイブリッド授業は、今後さらに一般的になるであろう。講義形式で視聴者側からの働きかけがコントロールできるので、オンライン配信は多人数が一度に視聴しても安全性が保てる。だが、大学など所属意識が高い集団でオンライン授業をするのであれば、その場の雰囲気や他者の意見、時にはハプニングなども共有できることが重要なのではないかと考える。この時代の大学生は孤独感を感じている。通学時間の短縮などオンライン授業のメリットも実感したうえで、他者とのつながりを欲している心情が伝わってくる。授業時間を分割して入れる出席者人数を制限したり、zoomのブレイクアウトルーム機能を活用するなど、オンラインだからこそ、少人数で受講しているような工夫が必要なのではないかと考える。ネット環境の不安定さ等ハード面の課題が解消でき、学生ひとりひとりが教員や他の学生とつながっている感覚をもてることがハイブリッド授業のめざすべき道ではないかと考える。

5. 引用文献・参考文献

厚生労働省報道発表資料（1999）社会福祉基礎構造改革について（社会福祉事業法等改正法案大綱骨子）

みずほ情報総研株式会社(2019)児童養護施設等において子ども間で発生する性的な問題等に関する調査研究報告書

久保田まり（2010）児童虐待における世代間連鎖の問題と援助的介入の方略：発達臨床心理学的視点から　季刊・社会保障研究　第４５巻　第４号

山下　功（2021）遠隔授業の実施事例と授業改善　新潟国際情報大学経営情報学部紀要　第4号

西山　茂（2021）遠隔授業の経験的考察　新潟国際情報大学経営情報学部紀要　第4号

藤原俊幸　他（2021）遠隔教育の実施と大学での教育に関する一考察―建学の精神を伝える授業のオンラインでの実施をもとに―　長崎国際大学教育基盤センター紀要　第4巻

ピアスーパーバイザーからのコメント

本論文はオンラインと対面のハイブリッド授業を行うにあたって学生の主体的な学びを深めるための試みを実践、また情報ツールの可能性について考察され、これは今後の教育活動の中で模索、改善が求められる内容であると思われます。今後一層ハイブリッド授業のような授業体制が一般的になることが予想される中で、特に座学だけでなく演習科目においても同時性を保ちながら授業を進めてくことは重要な課題となると考えられ、本実践報告の知見がより多くの先生方に共有されることを願っております。

（担当：辻本　恵）